


Ursula and Fritz Melchers Travel Award を受賞して

氏名	齋藤 浩大	
所属	北海道大学大学院 生命科学院 生命科学専攻 博士2年	
発表論文 タイトル	A role of STAP-2 in T cell activation and T cell-mediated immune response	

この度はUrsula and Fritz Melchers Travel Awardに選出していただき、大変光栄に存じます。Melchers博士御夫妻、ならびに選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。また、本賞に推薦いただいた指導教官の松田正教授をはじめ、日頃よりお世話になっております研究室の先生方に感謝申し上げます。私は宮城県仙台国際センターで開催された第46回日本免疫学会学術総会に参加させていただきました。

本学会ではアダプタータンパク質 STAP-2 による T 細胞活性化制御機構の解明について発表させていただきました。T 細胞は免疫系において貪食した細菌等異物を抗原提示する樹状細胞により活性化され、B 細胞の抗体産生や感染細胞に対する細胞傷害活性を誘導することで、異物の排除を担います。T 細胞活性化は T 細胞受容体(TCR)シグナルによって制御されており、免疫応答において重要な役割を担っており、その機能低下は免疫不全を誘発します。一方、TCR シグナルによる T 細胞活性化の異常亢進は関節リウマチや多発性硬化症に代表される自己免疫疾患の発症を促進することが報告され、TCR シグナルを介した T 細胞活性化制御機構の解明がこれらの免疫疾患の発症機序の解明に大きく貢献されると考えています。本研究では遺伝子導入によるタンパク質相互作用の解析やレポーター遺伝子導入による転写活性化における機能的相互作用の解析を行い、STAP-2 が LCK と CD3 と ITAM の相互作用を増強することで T 細胞活性化を介した IL-2 の産生を亢進することを報告しました。また、マウスを用いた生体内実験においても STAP-2 が IL-2 の産生を介してアクネ菌による免疫応答を正に制御することも明らかにしました。

今回の学術集会では上記内容をポスターセッションにて発表し、多くの先生方から質問やアドバイスをいただくことで有意義な時間を過ごすことができました。また、懇親会を通じて同じ受賞者の方々と交流を深めることもでき、これからの研究のモチベーションの向上、多角的な視点から研究に取り組むことの重要性を再認識することができ貴重な経験となりました。それと同時に英語でのディスカッションの経験不足を痛感し、これからは自身の研究内容も含め英語の勉強にも励んでいこうと強く思いました。

私は未だ有効な治療法のない免疫疾患の新規治療法に繋がる研究を行っていきたいと考えています。今回の受賞を励みとし、免疫学の更なる発展と自己免疫疾患の根治に少しでも携わることができるよう、これからもより一層研究に励んでまいります。